

平成 29 年 9 月 15 日

平成 29 年度 全国学力・学習状況調査の結果について

新発田市教育委員会

1 平均正答率

	小 学 校				中 学 校			
	国語 A	国語 B	算数 A	算数 B	国語 A	国語 B	数学 A	数学 B
新 発 田 市	78	60	81	47	78	73	66	49
新 潟 県	77	59	80	46	77	73	66	48
全 国	74.8	57.5	78.6	45.9	77.4	72.2	64.6	48.1
県平均との差	+1	+1	+1	+1	+1	0	0	+1
全国平均との差	+3.2	+2.5	+2.4	+1.1	+0.6	+0.8	+1.4	+0.9

※ 平成 29 年度から文部科学省は県、市、の正答率の数値は整数値で公表している。

(1) 小学校の特徴

- ① 全ての種目において、新発田市の平均正答率は県平均と同等であり、全国平均を上回っている。
- ② 全体的に、県の平均正答率は全国平均よりも高い傾向にある。
- ③ 新発田市の平均と全国平均・県平均との差は 1.0～3.2 ポイントで、昨年度に比べて小さい。

(2) 中学校の特徴

- ① 全ての種目において、新発田市の平均正答率は全国平均及び県平均と同等である。
- ② 全体的に、県の平均正答率は全国平均と同等である。
- ③ 昨年度と比較すると、全ての種目において県平均及び全国平均と同等または上回っており大きな改善が見られた。

2 考 察

(1) 学校別平均正答率

- ① 小学校では 4 種目の平均正答率の合計で、全国平均以上または、同等の学校数と下回る学校数がほぼ同数であった。全国平均+10 ポイント以上の学校数と-10 ポイント以下の学校数もほぼ同数で二分化の傾向がうかがえる。
- ② 中学校では 4 種目の平均正答率の合計で、7 割以上の学校が全国平均以上または同等であった。全国平均を上回る学校数が昨年度より増えている。
- ③ 学校規模の違いがあるため、単純に比較はできないが、学校間の差は小学校では昨年度より縮小し、中学校では昨年度より大きくなった。これは、小学校は 4 種目の合計で全国比とのマイナスの差が昨年度より 22.7 ポイント縮まり、中学校は 4 種目の合計で全国比とのプラスの差が昨年度より 28.8 ポイント高くなったことによる。

(2) 各設問に見られる傾向

	小 学 校				中 学 校			
	国語A	国語B	算数A	算数B	国語A	国語B	数学A	数学B
総 設 問 数	15	9	15	11	32	9	36	15
全国平均と同等又は上回った設問数	13	9	14	8	23	9	28	13

【小学校の傾向】

- ① 国語では、全国平均を大きく下回る(−5ポイント以下)設問はなく全般的に定着が図られている。国語Aで全国平均に及ばなかった設問は、「お礼の気持ちを伝えるために、書かれている内容の説明として必要なものを選択する」−2.9ポイント、漢字を正しく読む問題(事務室)が−1.9ポイントであった。また、「漢字を正しく書く問題、おいて(置いて)」が、全国平均と同等であるが、県平均を4.9ポイント下回った。
- ② 算数では、全国平均を大きく下回る設問はなく全般的に定着が図られている。算数Aで全国平均に及ばなかった設問は、「重さ、長さについて任意単位による測定を基に比較しているものを選ぶ」−3.7ポイント、算数Bでは、「13本の直線を使う場合、手紙の用紙の長い辺を3等分するのは何本目の直線かを書く」−2.8ポイント、「示された式の中の数が表す意味を書きその数が表のどこに入るかを選ぶ」−2.1ポイント、「与えられた情報から基準量、比較量、割合の関係を捉え「最大の月の直径」に近い硬貨を選び、選んだわけを書く」−1.9ポイントであった。

【中学校の傾向】

- ① 国語B及び数学A・Bでは、全国平均と同等、またはそれを上回った設問数が増えており、好ましい傾向にある。特に、国語B及び数学Bとも着実に増えており、発展問題に対応する力が身に付いてきていると言える。一方、全国平均を下回った設問数は、国語Aで昨年度より6問増えている。
- ② 全国平均を大きく下回る(−5ポイント以下)設問は昨年度より少なくなっており、数学Aの1問のみであった。それは「円柱の体積を求める」−9.5ポイントであり、昨年度も同様の設問「円柱の体積から円錐の体積を求める」で全国平均との差が大きく、改善が必要である。
全国平均に及ばなかった主な設問は、国語Aでは「漢字を書く(雨で運動会がエンキ(延期)になる)」−2.0ポイント、「画面に示された字幕についての説明として適切なものを選択する」−2.5ポイント、「見出しの内容に対するまとめとして適切なものを選択する」−2.4ポイントであった。数学Aでは「 $5/9 \times 2/3$ を計算する」−3.8ポイント、「aとbが負の数るときに四則計算の結果が負の数になるものを選ぶ」−3.1ポイント、「1回転させると円錐ができる平面図形として正しいものを選ぶ」−4.1ポイントであった。

(3) 授業との関連

小学校・中学校ともに「自分の考えを発表する機会が与えられている」(小・肯定的な回答 86.3ポイント 中・同83.9ポイント)「友達との間で話し合う活動を多く行っていた」(小・同91.0ポイント 中・同89.3ポイント)「授業の中で目標(めあて、ねらい)が示されている」(小・同92.0ポイント 中・同94.7ポイント)「授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていた」(小・同83.9ポイント 中・同78.9ポイント)と回答した児童・

生徒の割合は、全国平均より上又は同等であった。さらに、肯定的な回答をした児童・生徒ほど平均正答率が高くなる傾向が見られる。

(4) 家庭学習との関連

- ① 小学校・中学校ともに、1日当たりの家庭学習の時間が1時間以上の児童生徒ほど平均正答率が高くなる傾向が見られる。
- ② 平日の家庭学習の時間が1時間未満の児童生徒の割合は、小学校で24.1%（昨年度比－1.7%）、中学校では27.7%（同－12%）であった。その内、30分未満と全くしないを合計した児童生徒の割合は小学校では3.5%（同＋0.8）、中学校では9.3%（同－4.4%）であり、小学校の30分未満が昨年度とほぼ同じであった以外は昨年度より減少している。
- ③ 小学校・中学校共に、家庭学習の習慣化が図られてきている。今後も時間を確保するとともに、授業内容との関連を図るなど、児童生徒が意欲をもって主体的に取り組めるよう指導を継続していく必要がある。

(5) テレビ・テレビゲーム等との関連

- ① 小学校・中学校ともに、テレビやビデオ・DVDの視聴時間、テレビゲームをする時間、携帯電話・スマートフォンの利用時間を1時間程度にコントロールできている児童生徒の正答率が高い傾向にある。
- ② テレビ等の視聴時間より、テレビゲームをする時間、携帯電話・スマートフォンの利用時間に顕著な相関関係が見られた。
- ③ 学校と家庭が連携し、メディアコントロールの取組を引き続き行っていく必要がある。

3 成果と課題

(1) 小学校について

- ① 国語A・B、算数A・B問題ともに全国平均を上回り学習の定着が図られている。学ぶ意欲を育てながら基礎・基本の定着を図るとともに、昨年度から「新発田市授業スタンダード」を基本とした授業改善に各学校が取り組んできた成果であると考えられる。
- ② 算数B問題では全国平均を下回る設問が複数ある。日常生活の問題解決のために必要な情報を収集する、表やグラフに分かりやすく表現し、特徴を捉える、基準量や比較量、割合の関係を考察するなどの算数の学習内容を用いて活用する力を育てることが重要である。

(2) 中学校について

- ① 「新発田市授業スタンダード」を基本とし、授業の目標の明示と最後の振り返りを位置付けるなどして、生徒一人一人に確かな学びが実感できる授業づくりに取り組んできた。全ての種目において、0.5ポイント以上全国平均を上回ったことは大きな成果である。
- ② 国語A・数学Aともに全国平均を下回る設問が3割程度ある。基礎・基本の確実な定着を図るとともに、生徒の思考を促す課題提示を工夫し問いを引き出すなど、生徒が主体的に考える授業を適切に位置付け、「学ぶ楽しさ」「分かる喜び」を実感させることが重要である。